

明治二十九年勅令第三百三十七號  
 ヲ以テ新ニ稅務管理局官制ヲ定  
 ノラレ稅務制度ノ更革ヲ行ハレタルニ  
 當テハ稅務執行其ノ面目ヲ一新セ  
 ムコトヲ期シ特ニ内訓シテ稅務署  
 監督上服膺スヘキ事項ノ大綱ヲ示シ  
 タリ今テヤ制度改正ノ後既ニ數年ヲ過  
 キ稅法整理モ亦稍其局ヲ結ハント  
 シ今後ノ良績ハ一ニ之ヲ當事吏員ノ  
 公正忠實ナル執行ニ向テ望マサルヘカ  
 ラサルニ至リタルヲ以テ更ニ訓告ヲ新  
 ニシ以テ益々稅務ノ整頓ヲ謀ルヲ必

原價

廿八年	廿九年	三十年	三十一年	三十二年
一九七三、一九八四	二六、九三、三四	三五、二六、五九	三七、九七、四九	五三、一四、三〇

棉花輸入税ハモ英輸入税ノ四割四十分ノ比ニ定ム

要ト認ノ茲ニ明治二十九年十一月一日、内訓ヲ改メ更ニ訓示スル所アラムトス宜シク此ノ意ヲ體シ左ノ條項ニ則リ小事ニ拘々タラスシテ大局ノ成績ヲ收ムルコトヲ期スヘシ

第一條 稅務管理局長ハ稅務執行上常ニ稅務署長ヲ督勵シ正當ニ敏活ニ事務ヲ行ハムコトニ注意スルコトヲ要ス

第二條 稅務管理局長ハ親シク各稅務署ヲ巡閱シ又ハ司稅官若ハ稅務屬ヲ派遣シテ稅務署ヲ監査セシメ稅法ノ適正ニ施行セラハル

コトヲ期スヘシ

第三條 稅務管理局長各稅務署

ヲ巡閱スルトキハ左記事項ニ付キ注意スルコトヲ要ス

一 職員ノ配置ハ事務ノ繁閑ト相應スルキヤ否

二 職員ノ勤惰、能否、品性

三 署長ノ部下監督ハ其宜ヲ得全般ノ事務ニ付能ク指揮命令ヲ為スヤ否

四 職員事務担当ノ適否

五 官吏服務規律ハ嚴正ニ遵守セラハルヤ否

六 署長以下ノ他官衙又ハ所得調査委員會等ニ對スル關係

七 署長以下ノ人民ニ對スル言語應接ハ其宜ニ適スルヤ否

八 事務ハ簡捷ニ執行セラルヤ否

九 稅務執行府<sup>府</sup>法令ノ規定又ハ上官ノ訓令等ニ違背シタルコトナキヤ否

十 管理局ヨリ指揮命令シタル事項ハ其精神ヲ誤ラスレテ執行セラルヤ否

十一 稅務執行上ニ參考トナルヘキ材料ハ周到ノ注意ヲ以テ蒐集セ

ラレアルヤ否

十二 諸般ノ文書帳簿圖面等ハ整理其宜ヲ得ルヤ否其ノ計數ヲ記載スルモノハ計算正確ナルヤ否

十三 課稅ノ賦課徴收ハ相當期日ニ依リ確實ニ其手續ヲ為シアリヤ否

十四 土地丈量石數査定等ノ確否

十五 地價査定年期查案等ハ適實ナルヤ否

十六 酒醬油其ノ他課稅物件ノ檢査監督ハ適度ニ執行シ能ク營業

上ノ利便ト課税上ノ取締トヲ調和スルヤ否

十七 犯則ノ調査及滞納處分ハ中正慎重ニ之ヲ行ヒ行政官ノ人民ニ接スル態度トシテ相當ナルヤ否

十八 現金ヲ收入スル官吏ハ嚴重ニ其計算ヲ為シテ金庫ニ拂込ヲ為シアルヤ否且ツ署長ハ之ニ對シテ相當ノ注意ヲ為スヤ否

十九 現金及諸物品ノ保管取扱方其宜ヲ得ルヤ否

二十 経費ノ支辨物品ノ購入消費等其宜ヲ得ルヤ否

二十一 署内取締向ハ其ノ宜ヲ得ルヤ否

二十二 前各項ノ外稅務執行上參考トナルヘキ事項

第四條 司稅官又ハ稅務屬ヲシテ稅務署ヲ監査セシムルトキハ前條ニ記載シタル事項其ノ他必要ト認ムル事項ヲ指示シ監査上服膺スヘキ事項ヲ心得セシメ之ヲ派遣スルモノトス

第五條 司稅官又ハ稅務屬ヲ監査スル事蹟ヲ明ニシ其ノ意見ヲ付シテ稅務署長ニ報告スルハシ

軍中諸君の内深  
 親身有る位記  
 方見 幸致方見記  
 意有し其年  
 下年ハ定有初

第六條

巡閱又ハ監査ノ結果事務

上改良又ハ注意ヲ要スルト認ムルト

キハ稅務管理局長ハ稅務署長ニ

對シ改良又ハ注意ヲ促カシ事一

般ノ施設ニ関スルトキハ速カニ相

當ノ施設ヲ為スコトヲ要ス

第七條

部下監督ノ要ハ稅務ノ

執行ヲシテ中正ニ歸セシムルニ在

ルカ故ニ前項ニ依リ改良又ハ注意

ヲ促カシ若クハ一般ノ施設ヲ為ス

ニ當テハ常ニ大局ニ考ヘ適度ニ

至ルヲ期スルコトヲ要ス

右内訓ス